
帰り道

木下りんご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰り道

【Zマーク】

Z0634V

【作者名】

木下りんぐ

【あらすじ】

身近なところに転がっている「宝物」を、あなたも一緒に探しに行つてみませんか？

「ねえねえ、アキちゃん、見て。さあすべり百日紅の花」

普段と何も変わらない、学校からの帰り道。

最近咲いたばかりしい花を見つけて、ユイが嬉しそうに叫んだ。

「金平糖に似てるよね。百日紅って」

私にはいつ見ても何の変化もないよ^うと思えるこの道で、ユイはいつも何かしらの変化に気づいては喜ぶ。

なんとかつていう花が咲いたとか、今日空が機嫌だから青く透き通っているとか、あの猫は初めて見た顔だとか。

しかし私にとつては、そのどれひとつも心を動かすものではなかつた。思い浮かんでくる言葉もなくて、私はいつも只^{ただ}言へ。

「そうだね」

いつもと同じ道を、同じ速度で一人並んで歩く。

目に映るものは同じはずなのに、私たちはあるで違う世界を見ている。

ユイが見ている世界は、きっとキラキラと輝いていて、心弾ませるものがあたりに転がっているのだろう。

それは、素直に羨ましいなと思つ。

花を可愛いと思つたり、空の色の変化が美しいと感じるのは、生きていくために必ずしも必要なことではない。

それでも、そんな些細な“素敵なこと”で、心のポケットは宝物でいっぱいに出来るのではないだろうか。

一方私の田の役割はと言つと 車や電柱などの障害物を避けたり、信号の色を判断したり、といった具合に、危険回避のために使っていの割合が大半を占めている。

本当に必要最低限の事しかしていない……。

「アキちゃん、信号赤だよ」

ゴイの言葉で我に返つた。

柄にもなく考へこんでいたせいで、私の田は危険回避能力すら失いかけていたらしい。

「何か考へてたの？」

「んーー。何でもないよ」

そう言つた瞬間、私はふと、昨日までは少し違つ風のにおいを感じた。爽やかで、走り出しちゃなるよつた、そんなにおい。

考えるよりも早く、私の口から「んな言葉が出た。

「あ、夏のにおい

「夏の、におい？」

ユイがそう聞き返したとき、私たちの間をすつと風が通り抜けた。

ああ、なんだ。こんなに身近にあったのか。私にとっての“素敵なこと”が。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0634v/>

帰り道

2011年10月9日11時49分発行